

# 「株式会社 姫路シティFM21」

## 第36回 放送番組審議機関 審議会議事録

1. 開催日時 平成21年5月9日(土曜日) 午後1時30分～午後3時

2. 開催場所 姫路市本町68イーグレひめじ地下2階 会議室

### 3. 出席状況

1) 委員総数 11名

2) 出席委員数 8名

3) 出席委員の氏名(敬称略、順不同)

有馬 妙子 井上 重義 岩成 孝

大谷 昭仁 衣笠 愛之 熊田智裕

平間 由香利 柳谷 郁子

4) 欠席委員の氏名(敬称略、順不同)

梅宮 功 岸田 直美 宮本 節子

5) 会社側出席者氏名

二木 英徳 (代表取締役 社長)

白井 正敏 (専務取締役 放送局長)

山南 俊雄 (常務取締役 営業部長)

小幡 博 (営業企画 課長 兼 放送総務 課長)

小林 寛幸 (放送総務部編成制作担当)

### 4. 議題

資料をもとに説明を行う。

#### (1) 事業報告

- ・平成21年3月度からの事業報告
- ・新番組についての報告
- ・情報窓口の設置について
- ・他局の状況

#### (2) 事業計画

- ・今後の予定

#### (3) 試聴

- ・播磨まるごと探検隊、姫路駅発!はりま情報ステーション79.3

## 5. 審議内容

事務局より資料説明のあと、質疑応答を実施した。

- 委員長 資料説明、試聴をふまえて、ご意見質問などをお願いしたい。
- 委員 トラクターでよく聞かせていただいている。審議させていただく中で、視聴率というか、もっと多くに聞いてもらいたいのか、またスポンサーを積極的に開拓していきたいのか、そのあたりはどうか？
- 委員長 視聴率についてはどうか？
- 事務局 ラジオについて、聴いている人数を図ることは大変難しい。県域局であっても、ラジオに装置をセットすることはできないので、サンプル・記入式の調査である。手間もコストも発生するため、厳密な調査は難しい。現在はフリマガのアンケートハガキなどを利用しているが、聴取率調査というよりも聞かれ方の調査である。聴いている人を増やすということについては、至上命題。そのためにはコスト的な面もあるがあらゆることをやらないといけない。配布しているフリマガもその1つで、5万冊発行し、シルバー人材センターの協力によりポストに貼るほか、1,100ヶ所に街頭設置している。また、ゲンキラジオ新聞については、連合自治会様の協力をいただきながら、21万部を全戸配布している。昨年8月号では、自治会・婦人会・市に協力をいただき、記事を作っている。もちろん、聴いてほしいと宣伝した上で、1度聞いてくださった方が、明日も聴きたくなるような番組にならないと意味を成さない。そのため、4つのコンセプトに基づいて、FMゲンキだから聴ける番組をしっかりと放送していこうと努めている。スポンサーについても、営業はもちろん、制作スタッフも営業的視点を持って、市民の方に聴いてもらえる番組、そして聴いてもらえていることを前提としたスポンサーを市内外とわず獲得していくために、努力している。
- 営業課長 スポンサー獲得について、8年経って問い合わせを受けることも少しはあるが、ラジオの営業はこちらから出向いて、この景気の中で開拓営業をしている。ラジオの場合は、これからも大手代理店の調査では厳しいという状況であるが、防災などを含めてラジオを使っただきたいということをお願いして、営業している。スタッフ一同、努力をしているので、番組審議委員の皆様においても、可能性があるスポンサーがあればお知らせいただきたい。
- 委員 私も新聞や雑誌などにスポンサーをしようかと思うが、どのぐらいの効果があるのか、その効果が出ないと踏み切れない。FMゲンキからも営業をうけたが、はっきりいって躊躇した。このぐらいの人が聞いている

という数値が有ればよいが。他の地方にいったら、ガソリンスタンドでも喫茶店でも地元のFMがかかっている。個人個人に聞いてもらうよりも、このような場所がかかっていると、いっきに地元FMの経済効果が上がるのではないのか。そういう営業努力をする必要もあるのでは。

営業課長 他局の場合、音楽中心であるが、FMゲンキはAMに近くしゃべりが多いため、ガソリンスタンドの方などから、これだけ喋りが多いと掛けにくいという声がある。

委員 AMでも聞きやすいラジオ局とそうでない局がある。FM局では音楽ばかりであれば、音楽を聴くが、地元のFM局は多くの人に聴いてもらおうと思えば、聴く人の時間帯に応じて、もっと番組を編成すべき。今タイムテーブルを見たが、これは聴く人の立場にたっているのだろうか？と感じた。もっと精査するべきではないか？

事務局 2009年の4月から年代を上げたようなつくりに変えている。たとえば同じ30代でも一概には言えないが、内容の取り上げ方などについて、各番組の時間帯に応じて、対応するように努力している。すべての年代が聴いてくれる番組というのは非常に難しい。その中で、どの年代をとっていくかということについては、研究が必要である。特に取材に行ったり営業に行ったなかで聞こえてくる反響、審議委員会でのご意見なども反映させている。

委員長 メールのアクセス件数などが出ていたことがあったが、ああいった数量化できるものをスポンサーに売り込む時に利用してはいかがか。

事務局 新聞やチラシは発行部数で勝負できるが、ラジオの場合はエリア内の人口は出せるが、具体的に聴いている人数を出しにくい。

委員長 具体的にアンケートの返事はどのぐらいあるのか？

事務局 200通ぐらいである。頂いたご意見については、可能なものについては反映している。

委員長 8年経過するとスポンサーも変化するのか？

局長 一番のスポンサーは姫路市である。番組の特徴についても、タイムテーブル等で説明をしている。

委員 女性が車に乗って買い物に行くのは、午前か午後か。午前は掃除洗濯であれば車で聴くのは、午後2時～4時ぐらいではないのか。こういうのも、もうちょっときちっと。県立大学さんも参加されているので、調べて対応してはどうか。

事務局 現状の時間のとり方も各種アンケートを元にとっている部分もあるので状況により変化しているのであれば、変化させていけばよいと思う。またコミュニティFMについては、タレントで勝負ができない。有名タレントがしゃべる中で、地元パーソナリティが番組をやっていく。その条件で有名タレントを超えていくために、地域の情報、天気予報などを付加していく必要があると思う。有名タレントが出ているところを、地元のゲストが出ている、など、そういった形で勝負していきたい。

委員  
事務局 ゲスト出演の番組について、再放送をしているものはあるのか。  
「飛び出せ街の元気人」については、午後1時15分から本放送を行い、同じものを同じ日の午後6時30分から放送している。

委員 ケーブルテレビでは、同じものを1週間繰り返し放送している。あの繰り返し放送が有効である。出演者が聞いてね見てねといった場合、そのとき知らなくても、後で聴く事ができる。広がる効果が大きいと思う。実際に昼間は聞きにくいと思う。何回か日をまたがってリピートしていったほうが、たくさん聞いてもらえる。とくにラジオは聴いても消えてしまうので、何回も繰り返す事が刷り込みになる。地元で育成して、地元で手作りするというのが主眼であるので、できるだけゲストが出る事ができる番組を考えてもらって、特に子供が出演するものを考えてほしい。

事務局 リピート放送について。元気人が夕方に再放送されている理由が、社会人や昼間に聞けない人向けである。難しい部分があるとすれば、ケーブルテレビは生放送がほとんどない媒体であり、週に1日だけ見ればもう見なくてもよい。しかしラジオは生放送が主体で、生活している人の時間に合わせた番組を放送している。その中で、同じものが2回3回流れた場合、同じものをもう聞いてくれないとなれば、問題である。これを解決する手段として、1つにインターネット技術があるのではないかとおもう。ゲスト出演番組をどんどんネットにストックして聴けるようになれば、価値が生まれるのではないかと思う。もちろん、番組編成上可能であれば、再放送も考えて行きたい。

子供向けについては、小学4年生が出演する「10才!2分のおとな団」がある。各学校に声を掛けて出演してもらっている。この番組はインターネットでも聴けるようにしている。保育園児が出演するGENKIキッズパークも取材を通して、子供を掴めば親と祖父母がくるということもあるので、継続してやっていきたい。協力的な保育園は、園便りなどにも載せてくれるので、ありがたいと思っている。

委員長  
事務局 特にリピートしないといけないのは、防災関連である。  
防災については、1日4回放送している。最近は新型インフルエンザが懸念されているが、これについてもパーソナリティに資料を配布し、随時放送している。

委員長  
事務局 地震災害については消防局からの緊急放送ができると聴いているが、新型インフルエンザなどについての対応は考えているのか。  
総務省からも放送体制を維持するよう指示が来ている。社内でも3つの段階に分けて、社内の体制を決めている。大流行の状態になれば、来れる人数のうち最低限の人数、当社の場合は2名いれば放送ができるので、その人数を決めて対応する予定である。

委員長  
委員 感染するようなものは人があうと感染するので対応が大変だとおもう。  
情報窓口の設置について。とてもうれしく思う。できることについて早速実現していただけるというココにこそ、FMゲンキとしての活路が

あるのではないか。

また、他局のネーミングが挙げられているが、FMゲンキという名前は抜群だとも思う。

別の質問だが、コミュニティ放送賞の授賞式とあるが、賞を受けたものについては、どのような作品なのか。またFMゲンキはどのようなものを出品したのか。

事務局

受賞した作品をみると、地域性が高いもの、市民の声があるもの、取材があるものが評価されている。例えば、豊岡の但馬弁講座などは、現地の人の声をどんどん取り上げながら、但馬弁を学んでいくというもだった。FMあやべの作品について、綾部市の鳥がいかるといふ鳥ということで、最近見かけなくなったこの鳥をみんなで探して、見つけたらラジオまで連絡して、それを放送してみんなで探すというものであった。鳥の鳴き声なども放送しながら、市民を巻き込んだ良い企画であった。当社は、平和ものということで、手柄山ピースフルメッセージ、真夜中セレクションを出品したが、惜しくも賞を逃した。

営業課長

先ほど説明した子供の番組、おとな団とキッズパークは過去に受賞した事がある。

事務局

過去の受賞作品は、GENKIキッズパーク、10才2分のおとな団、実況!ザ・祭り屋台in姫路である。子供の声は評価されやすいと思う。

委員

番組の中に、外国語放送が無いと思う。姫路は外国人も多いので、週に1回でも姫路のニュースを他の言語で放送することで、地域の情報や新型インフルエンザなどの情報を発信することは考えていないのか？

委員長

多言語の放送についての取り組みはどうか？

事務局

インフルエンザの問題などについて、本日欠席されている宮本委員からも外国人滞在者への対応、高齢者・子供への対応などについて質問を受けている。難しい部分ではあるが、例えばインフルエンザの予防方法などについてはきまった原稿をつくることのできるの、あらかじめ録音しておくこともできると思う。

委員長

ベトナム語放送の経緯について説明してほしい

事務局

姫路市内に居住するベトナム人の方のうち、親世代について日本語が分かりにくいという人数が多いという声を受けて、国際交流協会と協力し広報ひめじなどに連動した形で、ゴミの出し方、幼稚園の入学の仕方などをベトナム語で発信している。

委員

高校の評議員をしているが、高校生もいろいろクラブ活動などで頑張っているがなかなか紹介されないという声を聞いている。ラジオでも取り上げてもらえることはできないのか。私の子どもの頃はラジオを良く聞いていたが、最近はどうなのか？

事務局

若年世代がラジオを聴く割合は、驚くほど聞かれていないということが各種調査で出ている。先ほどのキッズパークやおとな団も子供に出演してもらおうことで、関心を持ってもらえるようにとやっているが、フリマ

がにもあるように「いちばん星」という番組をやっている。頑張る10代を応援するというテーマで、高校に訪問取材を行っている。5年ぐらいやっている。ラジオ放送だけでは聞きそびれたということもあると思うので、インターネットでも繰り返し聴けるようになっている。断られることも多々あるが、香寺高校さん、飾西高校さん、県大附属高校さんなど、親しくしてくださっている学校もあるので、先生方からも紹介いただきたい。

委員 再放送が午後3時からとあるが、学生はきけないのでは？

事務局 横帯として再放送時間を設定しているため、現実的でないことは理解している。その上で、インターネット放送を行っている。

委員 自治会でラジオ新聞を配布しているが、自治会自身がFMゲンキに関心を持っていないこともある。ラジオ新聞などを使って、アンケートなどをとってみても良いのではないのか。関心をもっておられない方も多い。高齢者はテレビを見るほうが多いようだ。しかし、車に乗ってる方は、関心を持っておられている。

営業課長 アンケートをとると7割は車で聞いているようだ。

委員長 調べると出てくると思うが、調べるのも大変だろう。

事務局 色々な形で意見を伺うのは大切だと思う。特にFMゲンキを知っている・聞いている年代以外に届かないところが大きいと思う。その中で、公民館に出張収録を行っているが、その場でFMゲンキをPRしていくということがこれからは大切になると思う。

委員長 自治会の回覧板でPRを回していくことはできないのか？

事務局 回覧板そのものをFMゲンキで製作して、提供している。今のところは防災PRを中心にしているが、次回改定時に内容を変える事もできる。

局長 アンケートはがき、ショッピングセンターでのアンケートなども実施している。委員の話にあったとおり、ラジオ新聞にてアンケートを実施することも検討したい。

委員 ケーブルテレビとの関係は？姫路市との出資関係は？

局長 いずれも姫路市の出資はあるが会社としては別である。番組上の協力関係もとくにない。FMゲンキと重複している出演者は数名いる。

委員長 パーソナリティの育成についてはどうか？

事務局 半分の時間が地元パーソナリティとなっている。

委員長 初級が18名、中級が10名となっているが、絞込みにしているのか？

事務局 1年という単位で見れば、最終的には合格するのは1名か2名となる。個人のレベルもあるし、FMゲンキ全体の年齢層などによっても、採用する対象がかわってくると思う。

午後3時15分、以上の報告・討議・検討を終了し、閉会した。

公表年月日 平成21年5月23日

公表内容 審議の概要

公表方法 自社放送17時45分～18時00分「播磨ホット通信」内  
事務所据え置き、ホームページ (<http://www.fm-genki.com>)

以上